



### ◆ 野外オペ「スカーレン」

12月31日、大晦日。念願の野外オペレーションに同行する日が来ました。場所は、昭和基地から約80kmの沿岸部の露岩地帯「スカーレン」。任務は、宙空圏チームの無人磁力計メンテナンスの支援。8時、CHヘリに物資を搭載し出発。眼下には、海氷に覆われた真っ白な海、冰山、大陸氷床から流れ出る氷河、ラングヤスカルの露岩氷河地形などが次々に見えてきます。あっという間の30分ほどのフライトでした。



無人磁力計



見事な氷瀑

到着後すぐに作業開始。器材を磁力計設置場所まで運び、見事な氷瀑を背に、メンテナンス作業。データ回収、バッテリーチェック・交換、動作確認などを行いました。磁力計は、広域のオーロラ活動を明らかにするために用います。57次では、4ヵ所の保守点検を予定しています。

その後、散策に出かけました。スカーレン大池の畔から歩くこと2時間。スカーレン氷河の絶景ポイントに到着。雄大な自然の造形美に圧倒されました。氷河に削られ表面がつるつとした岩盤、氷河や風化作用により破碎されてずたずたの岩石、迷子石なども見られました。



スカーレン氷河



滑らかに削られた岩盤と迷子石



宙空圏チーム

(仰木(56次)、源、田中、梅津)

### ◆ JARE57 隊員紹介

田中 良昌 (43) 夏隊 一般研究観測 愛媛県出身  
国立極地研究所 研究教育系

松山北高校出身。九州大学理学部物理学科に進学。4年生の時、第1次観測隊として越冬した北村泰一氏が指導教官であった。その後、大学院で学位も取得。2006年より極地研に移り、現在は特任准教授として教鞭もとる。オーロラトモグラフィを用いた多点観測によるオーロラの立体構造解明の研究に取り組んでいる。南極では、無人オーロラ観測装置の設置、無人磁力計のメンテナンス、西オングル島の定常観測機器の整備などを担う。子どもの頃より、星を見るのが好きだった。皆さんへは



観測機器整備(西オングル島)

「興味があることを突き詰めていくことが大切。いろいろなことに挑戦を」また、「議論は、アイデアを生み出す」とアドバイス。高校時代はサッカー部に所属し、FWとして活躍。松北生へは「城を眺めよ」と先輩より。

### ◆ 食彩 ANTARCTICA

日帰りの野外オペレーションでは、調理担当隊員が弁当を作ってくれます。しかも、保温ジャーに詰めてくれるので、寒い南極では助かります。

スカーレンでも散策後、雄大な景色、絶好の天気の下、温かい昼食を頂いたのです。格別でした。



心も温まるお弁当



ほっと一息、昼食休憩